

# 仏法領

ぶつぽうりょう

第73号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org



## 「水」

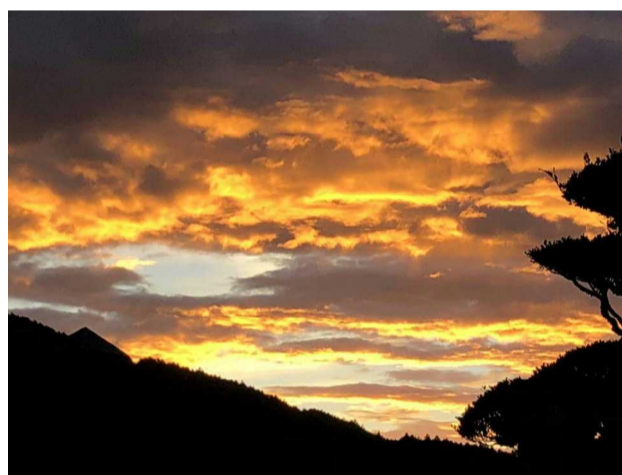
毎日  
水に生かされている  
暮らし  
顔を洗い 水を飲み  
ご飯を炊く

時には水不足や大雨  
に悩まされる  
水を得ることで失う  
ふるさともある

私達の未来は  
水と共存することが  
出来るだろうか  
いや共存していか  
なければならぬ

(写真・文 大迫 光浩)

今年(平成30年)3月、地元、伊良原ダムが竣工した。



7月21日、美しい夕焼け、境内で。



7月6日13時30分頃  
高屋川、道路冠水



秋。高屋、志水さん。田も終わりましたね！

## 秋のお彼岸法要

9月28日(金)

〜30日(日) 昼・夜

勤行 正信偈念仏和讃

法話 瓜生 崇 師

住職

(滋賀県東近江市玄照寺)

## ご案内

お問い合わせをご参詣ください

※詳しくは第4面をご覧ください

## 教えを聞くとは？

### 寺離れ

今年豪雨、台風、地震と日本列島は災害に見舞われています。上の写真を見ながら、日々の暮らしは自然の中の営みだとあらためて感じます。何事が身近におこるか分からないのだと。

ところで昨今の風潮として、寺離れという事を聞きます。都市部の傾向として葬儀などの時はお寺に頼むがそれ以外は付き合いたくない、と。住職から言えば、お寺と付き合い合うというのは教えを聞くということ。法座の雰囲気に触れてほしいのです。

### 生きる意味

女優の樹木希林さん死去の報道の中で、彼女が出演した映画『あん』の言葉に出遇いました。

私たちはこの世を見るために、生まれてきた。この世はただそれだけを望んでいた。だとすれば、何かになれなくても、私たちに生きる意味があるのよ。

世の中の役に立たない人は生きる意味がないという考え方に対して、存在するだけで尊いという深いところから出て来た言葉ですね。

### 願われている世界

ボランティアで出会った方たち、年配で都市部に住んでいる人が多いのですが、私が僧侶ということを知っている配慮でしょうが、やはり「感謝」が大切ですねと当然のように言われます。

踏み込んで発言をする間柄ではないので、次の言葉を思わず呑み込んでしまっています。

自分にとって都合の悪いことは起こらないでほしいと祈り、都合の良いことは感謝する。そんな生き方しかできない、その自分が問題だと教えてもらうのが宗教(仏教)ではないでしょうか。都合の悪いこと、困った状況の中でも、大切に生きてゆけるあなたになれと無条件に願われている世界があると教えられています、と。

◆お寺でのイベントのご案内◆  
「おらが町に来て見てギャラリー」

一昨年、昨年にひきつづき「おらが町に来て見てギャラリー」に参加します。

実施日は2018年  
10月27日(土曜日)



9時〜午後4時まで

28日(日曜日)

9時〜午後4時まで

●実行委員長は本庄の吉田正和氏にお引き受けいただきました。

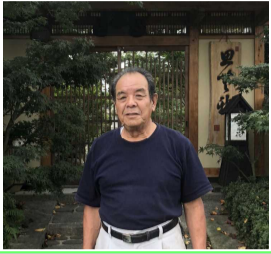


●本人は固辞されていますが、6月の世話人会議で皆様の熱意に推されて就任いただきました。皆様の熱いご協力をお願いいたします。

皆様が趣味で作られている手作りの作品展や、農産物等の即売会場(テント)も設けます。出品して下さる方はお知らせください。

●念信寺が参加する目的は、高齢化の進む犀川の中でも少し引っこんだ所にあり、活動を通して活性化をはかる必要があるからです。

●来て見てギャラリーの発起人である中尾正廣さんに思いたちをお聞きしたところ、下の「ご案内」文のとおりだそうです。



第十六回おらが町に来て見てギャラリー

10月27日 京都府犀川全域

番号	名称	住所	電話番号
1	豊の会	木山 0909603 5663	0909603 5663
2	雪月花	石川 075 274 3153	075 274 3153
3	梨山軒	石川 075 274 3153	075 274 3153
4	初亭	石川 075 274 3153	075 274 3153
5	念信寺	石川 075 274 3153	075 274 3153
6	ほらほら	石川 075 274 3153	075 274 3153
7	麦の穂	石川 075 274 3153	075 274 3153
8	...	...	...
9	...	...	...



**ご案内**

秋紅葉は皆様の心を癒す季節です。お寺の境内には、紅葉の美しい山々が広がっています。皆様と一緒に、お寺の境内を散策し、紅葉の美しさを感じてください。

今年度は、お寺の境内に、お寺の歴史や文化を伝えるための展示を行います。皆様と一緒に、お寺の歴史や文化を学び、お寺の歴史や文化を伝えることができます。

お寺の境内には、お寺の歴史や文化を伝えるための展示を行います。皆様と一緒に、お寺の歴史や文化を学び、お寺の歴史や文化を伝えることができます。

皆作・永代経法要のレポート

日時 六月三十日〜七月二日  
講師 松月博宣 先生(糸島市 海徳寺)

亡き人を仏と拝み拜まれる  
仏になると今を生きゆく  
(下関市妙蓮寺前住職の遺歌)を紹介されて、  
仏壇とテレビにお話しが続きました。

現状が続けば一生、仏壇(仏教)と親しむことなく終える人達が出現し、仏様と縁遠くなつていく可能性が大きくなりました。時代の流れでしようか、仏壇の前に座す時間が少なくなつて、テレビの前に座る時間が多く、比較にもならないものとなりました。



仏様を粗末にすることは自分を粗末にすることになります。仏壇に頂き物や初物等のお供えをする。おっぱん(お仏飯)をお供えする。そのような習慣も少なくなつてきているようです。例えば、おっぱんさんは温かい湯気を食していただ



く、そんな気持ちもありました。また仏壇の清掃は毎日実行したものです。今はどうでしょうか？  
仏様を中心にした毎日の習慣が変わってしまったのです。「葬式仏教」と言われて久しいですが、死者を弔うことに特化してしまつた、今をどう生きるかの教えがかすみつつある現状です。

「仏法領」はすべてのものは仏様のもの、です。その恵まれもので我々は生かされているのです。もともとのお内仏(仏壇)に接していただいて、自分に向き合い、感謝して頂きたい。子や孫、甥姪の若い家庭の仏壇のない所にも小さくても良いから購入をお勧め下さい。いとのお話しです。テレビは人(他人)を見ていることです、仏壇は自分を見つめることです、と念押しされました。



他には『阿弥陀経』のお話がありました。紙面の都合上、またの機会にレポートいたします。いつものおいさん 合掌





今回は下伊良原にお住まいの緒方繁美さんを紹介いたします。



緒方さんは、昭和十七年生まれで、お歳は七十六歳とのことでした。本年の三月に伊良原ダムが竣工致しました。ダム建設の話が起きてから約五十年。ひとの半生にゆうに相当する実に長い話です。

緒方さんは家が湖底に沈むという地域の、先祖代々からの住居者だから、否応なしのダム問題の当事者であったといえます。当事者も問題に浅くかわった人もいれば、深くかわかった人もいます。お話を伺うと、

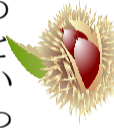


もちろん緒方さんは深くかわかってこられた人だとよくわかります。先に、人の半生に相当する長い時間と書きましたが、緒方さんにとってはまさに半生以上の年月だったのです。

十人十色といって、人が十人集まればそれぞれに違う人格の持ち主だから、意見を合わせることは大変難しい。約百戸あった水没対象者は五つのグループに意見が分かれたとのこと。

父祖から受け継いだ田地畑を湖底に沈めることは絶対許せないというグループもあるし、この機会に便利のよい都会地に移ろうと考えているグル

ープもあろうし、祓川は未整備のために過去何度も水害を起こしているために治水が第一目的であるダム構築を行政が決めた以上、計画を撤回させることは無理があるからいざずれば条件をつけてダム建設を認めよう、というグループもある。



緒方さんはこの第三グループに属したとのこと。もっとも、ダム建設を認めるといっても唯々諾々と行政に従うわけではない。現在、国の行政官でも自分たちに不利とみれば、知らぬ、存ぜぬと無責任極まりない風潮がみられる。ダムは県営事業だから県の行政官は数年任期で交代する。何か約束をしても官吏は前任者からはそんな約束は引き継いでないと逃げ勝ち。だから、行政には断固とした態度で臨まなければならない。

緒方さんは、若い時に村の青年団活動に積極的に参加し、県の青年団体の役員、さらに国の青年団体の役員をも務めたとのこと。そんな経歴をかわれて対ダム問題の第三グループの事務局次長、事務局長を長年務めてこられた。区長も十年勤められたとのこと。意見を集約してまとめる役目の人物が必要。



お話を伺っていて筆者がフト考えたことは、緒方さんがかくも長い時間にわたって運動を続けられたエネルギー源は何だろうということ。

まず思いつくのは、生まれ故郷に対する深い愛情であろうかと思われる。親兄弟だけではなく近郷の小父さん小

母さん、同級生、先輩後輩たちが居て遊び揉まれてくる中で成長してきたことは間違いがないところでしょう。また、人間だけではなく周囲の山川草木、一石一鳥も人の成長に役立ったに違いない。要は、厳しい山村のなかでの暮らしは、人はお互いが助け合ってゆかなければ生きてゆけないことだったと思われる。これらのことが相俟って、緒方さんの根底にある人に対する優しさ、ものや事物に対する慈しみの心が醸成されたに違いありません。



緒方さんたちのグループが掲げた三つの目標は、一つには、湖底に沈む住民たちの新たな代替の住居地を確保して欲しいこと。二には、村の存続に資するような事業を手掛けて欲しい。特に医療設備の開設を計ること。

三つ目には、伊良原の自然を活かすような事業を起こして欲しい。あと五町歩の森林公園整備事業を残して、要望事項は全部完成させたとのこと。ダム着工にあたっては、村に残る生活の様子や文化財の調査も十分に行われたと思われる。分厚い「伊良原」という調査報告書も刊行されています。

ところが、湖水面積は広大なものだから、十分に調査したとはいえ、やはり場末には見落とされていた神様の祠や顔面の不明朗な仏様の石像が工事中

に発見される。これらのものはそれこそ先祖代々の地域住民の情念が籠ったものだからおろそかには扱えない。個人的には土葬跡の人骨が発見される。これもおろそかにはできない。

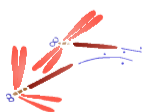


緒方さんは仏様の担当だったので、工事期間中はいつもロウソクとお線香を持って回らなければならなかったとのこと。遺骨が出れば仏事を行い焼骨し直して、身内の判るものは身内に引き渡し、身内不明のものには無縁仏として処理したということ。こんなことでも緒方さんの人柄がよくお分かりになると思います。愉快な方でした。

残念ながら、奥様は家の新築が完成する前後に病気で亡くなりなされたこと。現在は子供さんとお住いのこと。

これからもお元気で、地域のために貢献して下さいるものと思います。

(阿部正紀・記)



今号は今年竣工した伊良原ダムを取りあげました。ダムのことならこの人に聞くしかない、緒方さんにご登場いただきました。

ダムに取り組む課題の一つは将来にわたり故郷をいかに護るかであったと聞いています。町おこしイベントの開催動機にも同じ発想があります。では、豊かな生活とはどのような暮らしでしょうか？モノやお金でしょうか。心の豊かさとはどういうことでしょうか。それぞれご意見があるでしょう。

単に行政課題に終わらない広さ・深さを持って表現できる人は少ないと思います。(住)

# 秋のお彼岸法要のご案内

朝晩ずいぶん過ごしやすくなりました。皆さまいかがお過ごしですか？ご法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時 九月二十八〜三十日

日時	午後一時半〜	午後七時半〜
二十八日(金)	法話 瓜生先生	法話 瓜生先生
二十九日(土)	法話 瓜生先生	法話 住職
三十日(日)	落語会	

## ●講師

瓜生 崇先生 (二十八日昼〜二十九日昼席)

滋賀県東近江市 玄照寺住職  
日本脱カルト協合理事 響流書房代表



## ●瓜生先生のコメント

南無阿弥陀仏は単なる気休めではなく、また将来の幸福を期待する呪文でもなく、現実の私を救う言葉です。なぜ浄土真宗では南無阿弥陀仏なのかをお話しします。

## 世話人会議報告

### 日時

二〇一八年六月三〇日(土) 午前十一時より

### 開催場所

念信寺庫裏お内仏

### 出席者

世話人21名 責役・総代4名  
住職、坊守、前坊守3名  
(欠席事前連絡2名、連絡なし1名。)

事前連絡の方には、議事に関して議長



# おきでイベント 秋彼岸法要

## お寺で

## 落語会

## オテラクゴ

●日時 2018. 9月30日(日)  
昼 13:30 からお勤め  
14:00 から落語

### ●場所

念信寺本堂  
みやこ町犀川上高屋 761  
電話 0930-42-0329  
http://nenshinji.org

申込不要  
木戸銭不要



桂 梅團治



橋家 蔵之介



桂 小梅

東京と大阪、東西の真打が共演する珍しい落語会です。興味のある方は是非いらしてください！

- ◆四代目 桂 梅團治 (桂春團治門下・1980年入門・上方落語協会所属)
- ◆二代目 橋家 蔵之介 (橋家團蔵門下・1981年入門・落語協会所属)
- ◆桂 小梅 (桂梅團治門下・2011年入門・上方落語協会所属)



に一任の了解をいただいています。  
決定事項  
今年の本山納金は5,000円。秋彼岸に納めていただくことになりました。よろしくお願いたします。

### 検討事項

・総代選出などに関して世話人のまとめ役を作ること  
・総代・世話人には任期があるので継続的に話し合う場がない、組の門徒会と連動していないので、組織作りが必須

### 議事内容

- 2017年度本山納金決算について  
大東勝俊前総代より監査報告。
- 2018年度本山納金について  
本山納金の依頼額を門徒数で割ると5千円をお願いすれば足りることから、昨年同様の額をお願いすることになりました。
- その他  
来て見てギャラリーへの参加、委員長に吉田正和氏が推される。

本山納金とは、本願寺は全国の門信徒によって成り立っている教団です。それによって京都の東本願寺ならびに全国30教区の宗務所や宗派の関連組織を運営し、教化活動を行っています。門徒戸数に依ってお寺ごとに本山から依頼される負担金です。宗派の予算は同朋新聞の7月号に公表されています。念信寺そのものの護持金は今のところ、いただいております。

## お寺の活動



6/23納骨堂会議



7/25京都組こども会



8/16盆踊り



7/21来て見て実行委・世話人会

## 法座予定

二〇一八年

### ●ご正忌・報恩講

十一月二十一(水)〜  
二十四日(土)

### 藤澤 信照 師

(滋賀県東近江市浄光寺  
本願寺派行信校講師)

二〇一九年

### ●春彼岸法要

三月三〇(土)〜  
四月一日(月)

### 祖父江 佳乃 師

(名古屋市有隣寺住職)

### ●皆作永代経法要

六月二十九(土)〜  
七月一日(月)

### 松月 博宣 師

(糸島市海徳寺様)

あとがき  
法座の案内が遅くなるのは、寺報ができないからです。すみません。委員さんから原稿はすぐにいただけたのですが、編集作業が遅くなってしまいました。愚痴を言えば、パソコンが遅い！(誰のせいにも出来ないのです)

▼今年は秋がこないのではと思えるような猛暑日が続きましたが、立て続けに発生した台風とともに一挙に秋到来。涼しいのか暑いのか分からないような日々の中、彼岸花が咲き始めました。▼今年の夏、私は何をしていたんだろうか。ゴーヤ、きゅうり、シントウ、バジル。朝晩水やりをしたにかかわらず、収穫はわずかでした。▼さて、土台を改善したプランターには今度フリージアの球根を植えます。



↑推進員後期教習、8月21〜23日京都東本願寺。右斜め上は7/22前期教習(全3回)



↓8/7京都組門徒会



8・2盆前おみがき